

ポプラ

國兼 治徳

ました。そうしたら、この川でお昼にしようと決まりました。私は、やったあとと思いました。もう少し先に行き、また戻って来て、食べることにしました。

少し歩くと、妹が大きなカタツムリを持って来ました。妹が、手でカラを持っていると、力を入れたので、カタツムリのカラを割ってしまいました。妹はびっくりして、カタツムリを落としました。私は、落ちたカタツムリを拾って、石の上に乗せました。カタツムリのカラは、ぐしゃぐしゃだったけれど、中身は、きずがついていないので、少しかわいそうだけれど、カラをとってしまいました。そのカタツムリを石に乗せ、さっきの川の所まで持って行き、その石ごと、川の近くに置きました。

お昼は、おにぎりとおでんでした。おにぎりの中身は、1つ目はうめ、2つ目はかつおでした。卵は塩をつけて食べました。歩いた後の食事は、とてもおいしかったです。その後、おかしを食べました。川の近くで食べました。川に石を投げ、遊びました。

川に石を投げて遊んでいると、お兄ちゃんによべられました。なにかと思い、行ってみると、大好物のキュウリをくれました。お兄ちゃんと知り合いの人みたいでした。

食事が終わるとすぐ帰りました。

家に着いて、どっどつかれが出ました。でも、とっても楽しかったです。



ツリバナ
Eurostymus oxyphylla

1991

ツリバナ

北海道にはポプラが似合う。夕暮れ時の北大のポプラ並木は、見る角度によって素晴らしい景観である。学生時代、南門のすぐ近くに部屋を借りていた私は、さしたる用もないのに理学部裏の並木をよく見に行った。しかし、正面で見る並木は遠景のそれと趣を異にする。いつも並木の間の小路を暫く歩いて引き返した。それでも1・2回は並木のはずれまで行ったような気がする。

夏休みに弟が遊びに来た時、連れだってポプラ並木を見に行った。暑い日で構内はいつになく賑わっていた。いつものように途中から引き返して来たら、黒めのスーツを着た婦人達とすれ違った。上品な感じだった。多分、観光で見えたのだらうぐらいに考えた。

「今、宮様に会わなかったですか。」

と、男に突然尋ねられびっくりしてしまった。まごついていると、男は急いで後を追いかけて行った。そう云えば秩父宮妃殿下が来札していると新聞に報道されていた。私ははからずも宮様とすれ違ったらしい。昭和29年頃の話である。

ポプラについてはもう1つ思い出がある。昭和14年、私は今の岩見沢市に隣接する北村尋常高等小学校へ入学した。その年の夏休み前、ポプラの枝に飛びついて右肩を脱臼してしまった。夕方帰宅した父はすぐ私を自転車に乗せ、岩見沢の病院へ連れて行った。今と違って自家用車があるわけではなく、片道12キロの砂利道を自転車をこいで行った。途中、千間通りという人家のない原野の中を走った。狐が出ると噂されていたところである。

薄明りの乾電池だけがたよりだった。しかし、そうまでして病院に行ったのに、その時は治らず、夏休みに滝川の祖母の許から毎日整骨院に通った。それでもはかばかしくなく、更に岩見沢の町立病院で治療を受け、ようやく治った。子供が成長して一人前になるまでには、いろいろなことがある。私のようにあまり変化のない人生の中にも、多くの人の恩恵を受けて今日に至っている。思え

ば夜道を自転車で行った父の行為は、親でなければ出来ないことであろう。

ポプラ並木は、札幌市内だけでもあちこちに見られる。屯田の創成川沿いや真駒内、羊ヶ丘通りと、道路の片側に植栽されている。さっぽろ文庫の「札幌の樹々」の巻末にある街路樹々種別一覧(昭60)では、本数で10位にランクされている。道内各地の様子が不明なので比較できないが、市内には60種以上の街路樹があると同書で村野氏が述べているから、街路樹としての利用価値は高いと判断できそうである。ヤナギの仲間だけに成長の早いのが利用される理由の1つであろう。

ポプラは英語で、語源はPopulus(ハコヤナギ属)である。1963年度版“Americana”にはハコヤナギ属に35種あると記載されている。このうち手許の図鑑と共通するのは5種である。即ち、

学名	英名	和名
Populus alba	White poplar	ギンドロ
P. nigra	Black poplar	アメリカヤマナラシ
P. nigra var. italica	Lombardy poplar	セイヨウハコヤナギ
P. deltoides	Cotton wood	ナミキドロ
P. maximowiczii	Japanese poplar	ドロノキ

である。ポプラの愛称で親しんでいるのはセイヨウハコヤナギである。Lombardyはイタリア北部の地名である。そのせいかイタリアポプラとも云う。

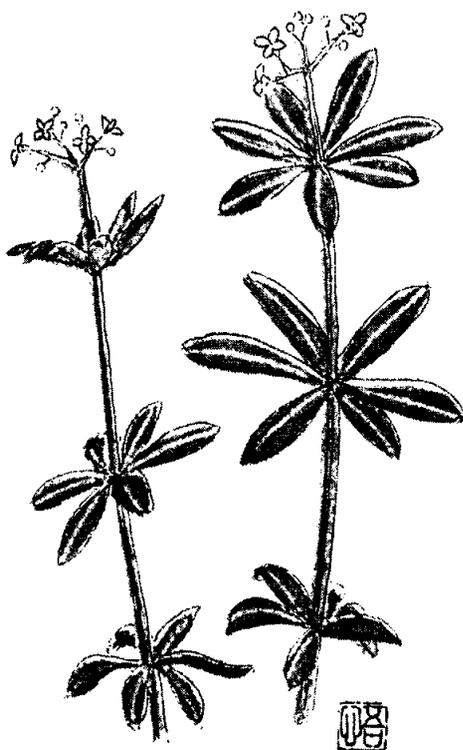
先日、真駒内の並木を見に行った。ところが下枝はすっかり切り払われ、見る影もない。殆ど坊主の状態の樹もあった。ポプラと云えば、ほうきを立てたような樹形と印象づけられていただけにがっかりした。剪定にはそれなりの理由はあるだろうが、瘤だらけの姿は異様だった。数枚の葉を採集するのに苦労した。ただ、

「街並木瘤りゆうりゆうと北風宥す」

の句にぴったりであった。これは滝川市の運動公園内にある石黒白秋氏の句碑の句である。勿論、石黒氏は冬景色を作句されたのだろうが。

札幌の高校へ転勤して車を持つようになってから、家族をつれて北村の当時住んでいた辺りを見に行った。しかし、すっかり様変りをしていて。小学校は移設してモダンな校舎になっていた。旧校舎の位置も決めかねて、通りがかりの老人に尋

ねたら、場所を示す碑を教えてくれた。大きな自然石に「小学校跡」とだけ刻印されていた。私が住んでいたのは2年半程で、住宅は校舎のすぐ近くにあったが、今は民家が並びわからなかった。又、ポプラの樹もなかった。父の自転車で通った千間通りは舗装され、原野は農地になって昔日のおもかげはどこにもなかった。それにしても岩見沢までは車でも結構な道のりだった。自転車をこいだ父はどんなにか苦しかっただろう。私は何回も車を止めて子供達にこの道の思い出を話したが、感傷的になるのは私だけであった。



クマバソウ
Asperula odorata. MAY 1971.

クマバソウ